

# 在宅ケア便り 社内版(六本木)

(株)日本在宅ケア教育研究所だより vol.6 2012年9月15日

## 生きる希望を持ち続けた T さんへの訪問看護を通して

昨年10月に入職して2日後に担当となったTさん。はじめての訪問担当、単身独居、がん末期、脳転移による半身麻痺、長年透析を行いご自身の考え方が明確な方に対して、訪問看護師としてどのような関わりをすればよいのかと悩みながらの週3回の訪問スタートでした。

訪問を続けることで、自分が末期状態であることを認識しつつも生きる希望を常に持ち続けていること、状態が悪化しても自主的にリハビリを行い、身の回りのことは時間がかかっても積極的に行うTさんの姿を知り、自分ができることは訪問を通してTさんの孤独や不安を和らげ、支えとなることだと気付きました。

入退院を繰り返すようになって「家に帰りたい」という思いを強く抱きながら、退院日に急変し翌日病院で亡くなりました。亡くなる1時間前に病院でTさんと最後の挨拶をしました。Tさんとの出会いを通して、自宅で過ごしたい意志を尊重し、利用者様と寄り添うことを学びました。

(看護師: 槇田美保)



## 訪問看護師になって

6月1日に入職し、六本木事務所に配属になりました、石澤千絵です。

私は、社会人経験後、看護師になりました。大学病院では、耳鼻科、外科と救急外来、救命センター立ち上げからは救命ICUで働いていました。

訪問看護は、看護学生の時から興味があり、病棟経験を積んでから進もうと考えていました。また、退院後の患者さまが、どのように生活しているかと気になっていたのもきっかけです。

入職後、独り立ちしてからは、訪問して受け入れられるか、時間までにたどり着けるか、短い時間で正しくアセスメントして看護介入できるかと不安でしたが、スタッフの手厚いご指導とフォローのおかげで、少しずつ雰囲気慣れてきました。また、利用者様の、「ありがとう、待っていたよ、また来てね」など温かいお言葉に支えられ、お役に立てるとやりがいを感じています。

早く一人前になれるよう頑張りますので、今後ご指導よろしくお願いいたします。



(看護師: 石澤千絵)



## 自転車のバッテリーと長く付き合うには…

お台場を除く、港区を訪問範囲としている当事業所ですが、とても坂が多く電動自転車に頼る部分が多いステーションになっています。なので、当日のルートを頭に入れ、坂をのぼるときにバッテリー切れにならないように、調整しながらの運転が必要になります。

そこで当事業所では4種類あるバッテリー(高価です)をいい状態で長く使用できるように、正しく充電できるよう工夫しています。

帰社後、ケアや暑さで疲労困憊の状態でも間違わないよう充電器と、それに対応するバッテリーにそれぞれ同じ色のシールを付けて対応しています。リフレッシュ充電も月一回お忘れなく!



(ケアマネジャー:黒川孝一郎)

## 編集後記とちょっと閑話



社内版在宅ケア便りの第2号、いかがでしたでしょうか。前회가とてもきれいに出来上がっていましたので、プレッシャーを感じながら作成しました。六本木事業所の雰囲気は少しでも伝わるようにと編集しましたが、いかがでしたでしょうか。

その六本木事業所はご存じのように、繁華街のすぐそばにあります。ちょっと歩けば有名なショッピングスポット、多数の飲食店、洗練された美術館、きらびやかなネオンなどなど、国籍問わず人がたくさん集まっています。

こんなにぎやかな街中で、先日出会ったのは1匹のクワガタ。歩道をマイペースで歩いている彼を所長が発見し、事務所へ連れてきてくれました。都心でのまさかの出会いに、事務所内は大盛り上がり。とりあえず、シュレツダーくずを敷き詰めた缶に住んでもらうことにしました。

コンクリートジャングルとはいえ、ところどころに緑のオアシスはあるもので、そういうところから迷い込んできたのかもしれない。日々の忙しさの中でも、なんかほっとした、なんかわくわくしたりした、とある夏の1日でした。

(看護師:和田淳一)

